

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

# CASBEE 新築[簡易版]

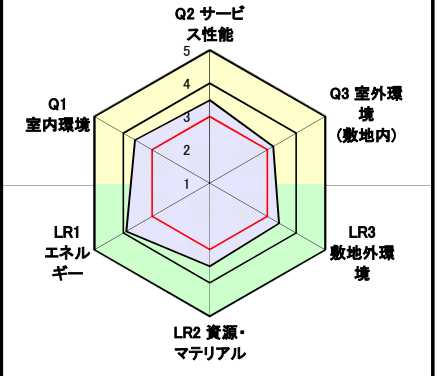
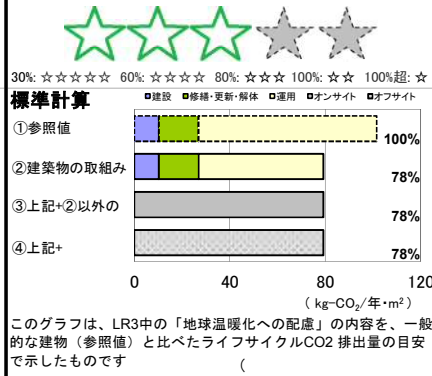
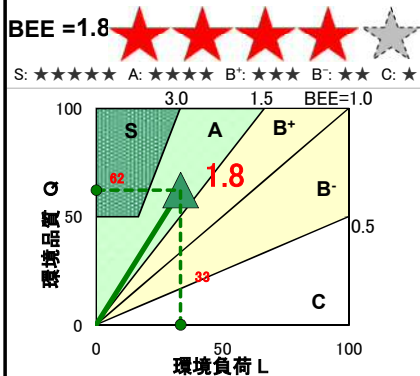
# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年追加版Ver.2 (BPI/BEI対応) | 使用評価ソフト: CASBEE-NCB\_2010bpi&bei(v.2.1)

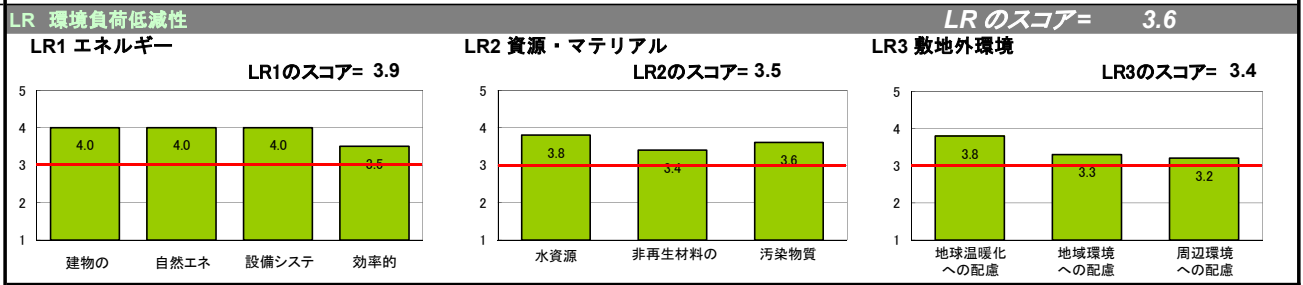
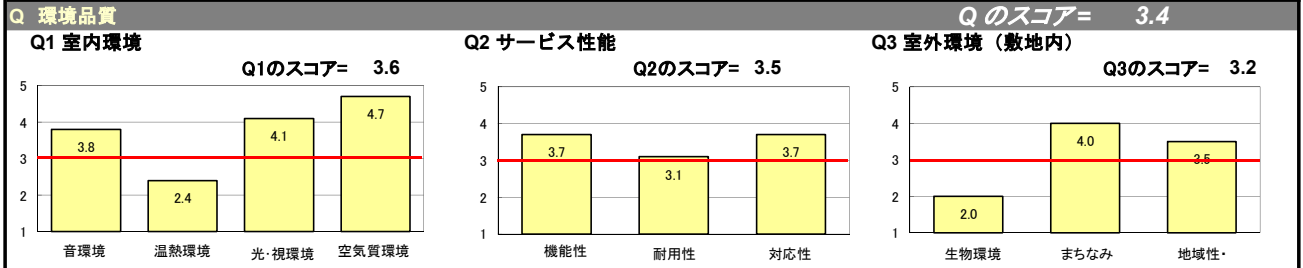
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	北九州市立大学北方キャンパス図書館	階数	地上4F
建設地	福岡県北九州市小倉南区北方4丁目	構造	S造
用途地域	都市計画区域内、市街化区域	平均居住人員	310人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,711時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年11月 予定	評価の実施日	2014年7月7日
敷地面積	50,851 m <sup>2</sup>	作成者	三迫 靖史
建築面積	1,441 m <sup>2</sup>	確認日	2014年7月7日
延床面積	3,844 m <sup>2</sup>	確認者	三迫 靖史



## 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート) 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



## 2-4 中項目の評価(バーチャート)



## 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>最上部にハイサイドライトを有した吹き抜けを設け、自然採光の促進を図ると共に、中間期にはハイサイドライトを排気窓、各外部サッシの換気スリットを給気口として煙突効果を利用した自然換気促進を図った。開口部を大きく設けることで、採光を十分に確保すると共に、方角に応じた縦・横ルーバーやライトシェルフを設置し、自然採光と日射遮蔽に配慮した。屋上緑化や建物周辺の緑化を行い、敷地内外の温熱環境の向上や生物環境の保全、豊かな景観の想像を</p>	0
<p><b>Q1 室内環境</b> 開口部や界床などの遮音性能に配慮した。Low-eガラスを採用して遮熱性能を高めた。ルーバーやブラインド等により、日射遮蔽と自然採光に配慮し、照明制御によって省エネを図った。化学汚染物質が少ない建材を選択した。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> キャンパス内や周囲の景観に溶け込む外装計画を行うと共に、建物周囲の空地には樹木や芝生による緑地を形成し、また、屋上緑化を積極的に行うことで、生物環境の保全や温熱環境の向上に配慮した。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電やハイサイドライト、クールビットを採用し、自然エネルギーの活用を図った。また、モニタリングシステムを活用したエネルギー運用や維持、保全の基本方針について計画を行う。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> 地表面や屋根面の緑化率を高めることにより、熱的な影響を低減し、温熱環境悪化の改善に努めた。ガラス面にはルーバーを設置することで、周辺へのグレアを抑制した。</p>
<p><b>Q2 サービス性能</b> コンセプトに応じ、照明計画を含めた内装計画を内観バースを用いながら進め、居心地の良い空間を目指した。メンテナンスの行いやすい設備配管や仕上げ計画を行うことで、維持管理性、耐用性の高い建物を目指した。</p>	
<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> 雨水貯留水を植栽散水に活用したり、節水機器の導入によって水使用量の削減を図った。また、リサイクル建材や解体時の分別が行いやすい工法を採用し、資源の有効活用に配慮した。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される